

ALPS処理水の海洋放出は、計画通り、安全性を確保して進めています。

- ▶2024年度は、ALPS処理水を7回放出する計画で、11月までに6回実施しました。現在、中長期的な設備の健全性の確保に向けた点検を行っています。(7回目の放出は2025年2~3月を予定)
今年度は、7回計で約54,600m³、トリチウム総量で約14兆ベクレル注を放出する見通しです。注:事故前の放出管理値と同じ年間22兆ベクレルの範囲内
- ▶ALPS処理水は、放射性物質濃度(トリチウムを除く)が、安全に関する規制基準を満たしていることを確認(下表①)し、さらに、トリチウム濃度が国の規制基準の1/40を下回るまで大量の海水で希釈してから海洋に放出しています(下表②)。
- ▶発電所周辺の海水のトリチウム濃度は、運用上の指標(放出停止判断レベル:700ベクレル/リットル)を大きく下回っています(下表③)。
- ▶放出開始から今年8月までの1年間について、放出実績、気象・海象データに基づき、放射線環境影響評価を実施したところ、人に対する被ばく線量は一般公衆の線量限度1ミリシーベルト/年の約5万分の1であったことが確認されました。

[2024年度放出実績] 1回目:4/19~5/7、2回目:5/17~6/4、3回目:6/28~7/16、4回目:8/7~8/25、5回目:9/26~10/14、6回目:10/17~11/4

処理水の放出量 (1~6回目合計)	トリチウム総量 (1~6回目合計)	①トリチウム以外の放射性物質の濃度	②希釈後のトリチウム濃度*1 (1,500ベクレル/リットル未満*2)	③海水のトリチウムのモニタリング結果	
				発電所から3km以内	発電所正面から10km四方
47,140m ³	約10.3兆ベクレル	告示濃度比総和*3 < 規制基準 0.078~0.31 < 1	最大436 ベクレル/リットル	最大50 ベクレル/リットル	検出せず

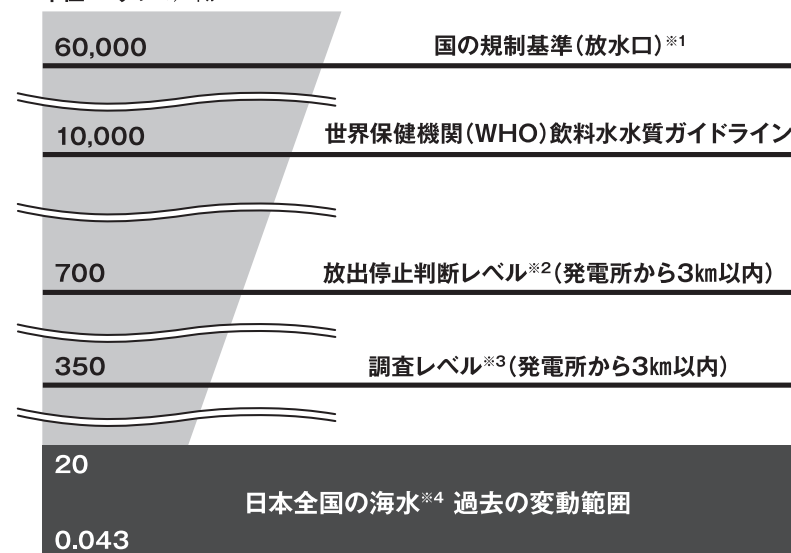
*1. 海水配管にて採取した資料のトリチウム濃度(「不確かさ(分析データの精度)」を考慮した値)

*2. 1,500ベクレル/リットル:政府方針で示された海洋放出のトリチウム濃度の上限(国の規制基準の1/40)

*3. 各核種の濃度の法令上の限度に対する比を求め、それを合計したもの

[参考]トリチウム濃度の比較

単位:ベクレル/リットル



*1. 70年間、原子力施設の放水口から出る水を、毎日、その濃度で約2ℓ飲み続けた場合に一年間で1ミリシーベルトの被ばくとなる濃度から定められた国の規制基準

*2. 設備の運用としてALPS処理水の海洋放出を停止する指標

*3. 「放出停止判断レベル」に達する前の段階において必要な対応を取る指標

*4. 出典「日本の環境放射能と放射線」(期間:2019/4~2022/3)



ALPS処理水に関する情報はこちらをご覧ください
▶[処理水ポータルサイト]
<https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/watertreatment/>



▶[放出計画および放出実績]
https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/watertreatment/performance_of_discharges/



福島第一原子力発電所の廃炉・汚染水・処理水対策
▶[皆さまのご意見をお聞かせください]
<https://www.tepco.co.jp/decommission/voice.html>



東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー
〒979-1301 福島県双葉郡大熊町大字夫沢字北原22